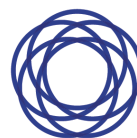


大阪大学新設科目 「学問への扉」について

副学長・全学教育推進機構長
佐藤 宏介



OU VISION 2021 教育改革



OPEN 2021



学問の真髄を極める**専門性**の獲得に加え、幅広い見識に基づく確かな社会的判断力としての「**教養**」、異なる文化的背景をもつ人と対話できる「**国際性**」、**自由なイマジネーション**と横断的なネットワークを構想する「**デザイン力**」を備えた人材を育成します。

大学を「**知の社交空間**」として、産官学のみならず広く市民社会に開き、オープンエデュケーションによる新たな学びの場を実現します。もはや**高等教育は大学人だけが独占すべき営みではなく、問題の発生している現場にいる人々との共創**も視野に入れるべきです。大学の専門知と産業界、市民社会との協奏と共創によるオープンエデュケーションは、**専門知と社会の「新たな統合」**を生み出していきます。

2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム



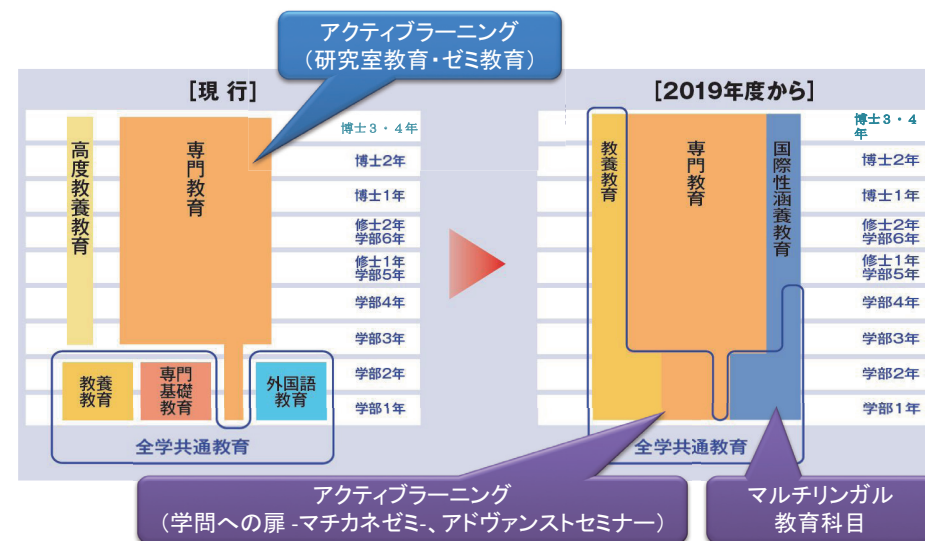
2019 学部カリキュラムの主要変更点

- 1) **教養・専門・国際性**の縦型教育モデルとその屋根としての**デザイン力**の涵養
- 2) **eラーニング大規模導入**
実践英語、情報リテラシー（統計含）
- 3) **マルチリンガル国際性涵養教育**の展開
- 4) 全学部混交 少人数セミナー型 初年次導入科目
「**学問への扉（マチカネゼミ）**」による、**「共創」意識・態度の涵養**

2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム



2019 縦型教育モデルへの転換



2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム



2019 全学共通教育の改革

- 学問への扉 (必修)
- 高度教養教育科目 (必修)
- 外国語教育科目 → マルチリンガル教育科目 (一部 eラーニング化)
- ○○教養科目 → 基盤教養教育科目
- 基礎セミナー → アドヴァンスト・セミナー
- 専門基礎教育科目
- 情報教育科目 (eラーニング化)
- 健康・スポーツ教育科目

● 学問への扉「マチカネゼミ」

少人数の学生で教員を囲み、テーマについて質疑応答・討論を行う対話型授業 (必修)



● アドヴァンスト・セミナー 1年次秋～

フィールドワーク、インターンシップ、サービスラーニング、ファシリテーション、リサーチラボ等の主体的学習を単位化



2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

学問への扉 - マチカネゼミ -

● 高校での学び方から主体的で創造的な大学での学び方への早期転換を促すことを目的とし、課題・文献など一つのテーマをもとに探究し、合わせてアカデミック・スキルズを涵養する。そのため、全入学生 (3255名)の1年春～夏学期の必修とする。

● 学生が興味あるテーマを学ぶ中で、異分野の他学部生とも接し、異なったものの見方や課題解決の道筋を意識する場とすることで、大阪大学の「教養教育」「専門教育」「国際性涵養教育」の導入とし、かつ「共創」マインドの発火点とする。

● レポートの添削指導やプレゼンテーションの指導などを行うことによって、学生の発信力を高めることを目指す。

● 少人数クラス教育とし、全教員担当制の考え方に基づいて約250クラスを開講する。

2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

全教員担当制

2017年2月全学承認

「共通教育・教養教育改革の方向性についてのまとめ」

高い専門性と幅広い見識を持つ大阪大学の全教員が、「知の社交空間」の一員である学生とともに、知の探求を礎とした知の交差に挑む環境を教育の場にも実現するため、これまでの「全学出動体制」をより明確にした、助教以上の専任教員全員が全学共通教育の責務を分担する「全教員担当制」を基本的な考え方とする。なお、責務とは、授業担当のみを指すのではなく、授業科目の提案・授業担当教員への支援や配慮等を含むものである。

2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

期待する「学問への扉」履修効果

1) 研究者との直接対話によって喚起される学びへの意識の変化

2) 専門とする分野以外の研究に触れることによる専門分野を見る視野の広がり

3) 入学直後に他学部の学生、他分野の先生と密に接する体験が育む分野の壁を超える学習意欲の向上。専門性、教養、国際性、さらにそれを統合するデザイン力を備えた人材を育成する教育の出発点として、学問的探求活動を通じて問題の本質を見極め解決のための手だてを考える意識の涵養

2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

初年次セミナー科目の改革

年 度	～2018	2019～	
科目カテゴリー名	基礎セミナー	アドヴァンスト セミナー	「学問への扉」
単位数	2	←	2
必・選	選択科目	←	必修科目
成績証明科目名	担当教員が個別付与	←	「学問への扉」
開講科目数	約130	～	1
科目毎のクラス分 け数	1	←	250
学生選択対象数	約130科目	～	70クラス程度
割当コマ数	時間割中に多数コマ が分散	←	時間割中に2コマ
申請希望クラス数	1科目毎	1科目毎	5クラス
履修希望者数超過	申請内容に基づき教 員が選考	←	機械的に自動抽選 (全希望外れ後の強制割当あり)
選考外れ時	受講せず	←	他クラスに自動割当され受講
開講キャンパス	任意	←	原則豊中キャンパス
開講学期	1年次各学期、夏期 集中	1年次秋学期以降各 学期（集中可）	1年次春～夏学期
開講形態	毎週、集中、混交	←	原則毎週

2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

～2018「基礎セミナー」

- 2018年度 1年次前後期に約130クラスを**選択科目**として開講
- 専門学部学科別入試から、専門研究を目指して入学してきた学生達が、旧教養部から綿々と継続する基礎座学（大綱化前の人文・社会・自然計36単位）中心の初年次カリキュラムに対して不満
- 2001年度「**体験的課題追求型授業**」プロジェクトとして有志が開発した科目群が好評を得て、全学部から教員自発開講科目として多く提供されるようになり、課題自体を学生が設定するDiscovery Seminar型へも拡充



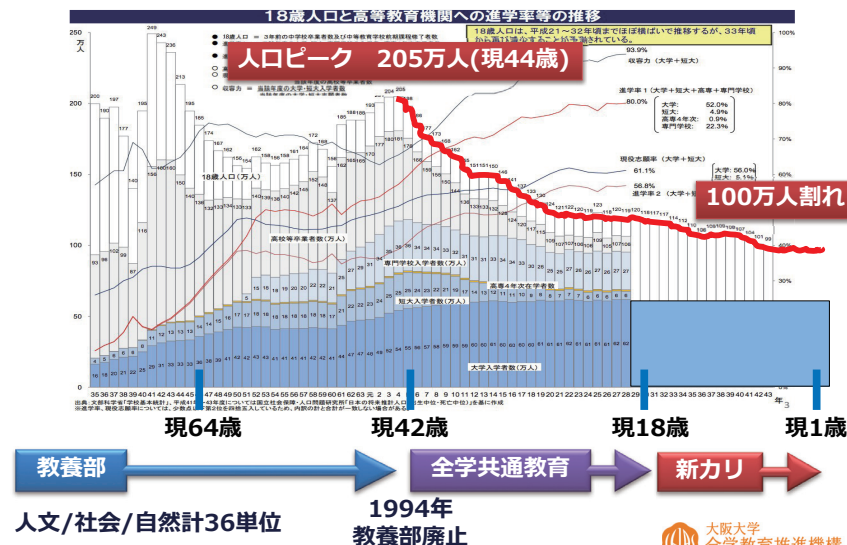
多くの基礎セミナーが「学問への扉」へ
移行する見込み



2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

大阪大学全学共通教育の変遷



2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

中等教育との接続

- 18歳人口が1992年（現44歳）の205万人のピークから、2018年117万人と半減近くになり、大学入学前までの発達過程が大きく変容
 - ➡ 進学競争圧力緩和による学力低下
 - ➡ 兄弟数減少による子供間コミュニケーションの欠如
 - ➡ ネット社会隆盛による対面コミュニケーションスキル的大幅低下
 - ➡ 大都市圏で難関国立大学を目指す場合、小4～高3まで9年間通塾
- 文科省は知識重視の学力観を廃し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」からなる「**新学力観**」を定義し、**主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）**の視点からの授業改善を推進
- 2018年3月高等学校学習指導要領改訂、「**理数探究**」新設
 - 対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。
 - 多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。
 - 様々な事象や課題に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

2018.11.11 「学問への扉」開設記念シンポジウム

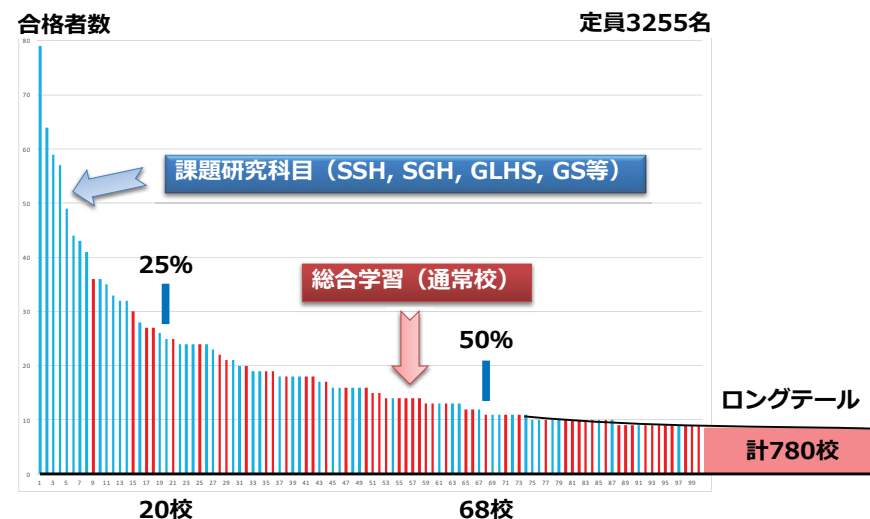
大阪大学
全学教育推進機構
Center for Education in Liberal Arts and Sciences

大阪大学シラバスにおけるキーワード

総 計	17,992	
プレゼン	1,012	5.6%
討論	567	3.2%
書く	221	1.2%
発表する	168	0.9%
ゲーム	142	0.8%
プロジェクト	135	0.8%
話す	118	0.7%
フィールドワーク	106	0.6%
双方向	91	0.5%
主体的	76	0.4%
グループワーク	73	0.4%
ワークショップ	56	0.3%
PBL	31	0.2%
参加型	23	0.1%
能動的	20	0.1%
アクティブラーニング	16	0.1%

大阪大学高等教育・入試研究開発センター、全学教育推進機構 調べ
2018.11.11「学問への扉」開設記念シンポジウム

大阪大学合格者と課題研究科目 2018年度



2018.11.11「学問への扉」開設記念シンポジウム

新しい大学院生像への接続

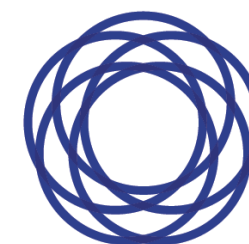
教育者) 教える→学びを支援する

研究者) 調べる→研究を管理する→自己を管理する

イノベータ) 創造する→統率する→資金を得る

対話者) 訪問する→問答する→表現する→協働する

大阪大学COデザインセンター＜新しい大学人になるために＞ 冊子
2018.11.11「学問への扉」開設記念シンポジウム



OPEN 2021

2018.11.11「学問への扉」開設記念シンポジウム